

理事長挨拶

平成27年の年頭にあたって



理事長 片岡 正俊

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月の消費税値上げ、夏場の天候不順、さらには過剰な円安等があいまって、中小企業の経営環境は厳しい状態が続きました。そんな中、都産技研は中小企業支援のメニュー拡充に努めてまいりました。その結果、平成26年度上半期の実績として、主要事業である技術相談で6万5千件、依頼試験で7万2千件、機器利用で6万5千件と、全体的には昨年度を上回りました。特に、一昨年10月に墨田支所に開設した「生活技術開発セクター」は、約7千5百件(前年度比167%)と多くご利用いただきました。中小企業の皆さまの積極的なご利用に、改めまして御礼申し上げます。

都産技研は、平成23年度開始の第2期中期計画に沿って、自らの技術、製品で市場に打って出る、いわゆる開発型の中小企業支援に力

を入れてきました。さらに最近、海外市場にも積極的に進出する「世界に勝つものづくり」支援に力を入れています。これらの支援事業について、最近の話題をご紹介します。

1) ロボット開発セクターの設立

昨年4月、都産技研本部に「ロボット開発セクター」を設立し、中小企業のサービスロボット開発支援事業を開始しました。ロボット開発を効率化すべく、ロボット駆動部分を「T型ロボットベース」として提供しており、活用が開始されています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れた「おもてなしロボット」の開発、普及にも力を入れてまいります。ロボット開発に関心のある中小企業の皆さまは、ぜひご利用ください。

2) 先端計測加工ラボの新設

昨年12月、高度な技術力を有する中小企業の新規産業分野への参入を支援するため、城南支所に「先端計測加工ラボ」を新設しました。航空宇宙産業や医療産業などの分野で要求される高精度な計測・加工機器を24機種(うち6機種を新規導入)整備しました。非接触式三次元寸法測定機、溶融積層造形装置など最先端の機器を活用した製品開発が可能です。皆さまの

積極的なご利用をお待ちしております。

3) 東南アジア技術支援拠点の開設(平成27年4月)

都産技研では、国内製品の海外輸出を支援する「輸出製品技術支援センター(MTEP:エムテップ)」を平成24年10月から運営し、本年度上半期も415件の専門相談をいただいております。さらに、本年4月からは、タイのバンコク市に東南アジアに進出した日系中小企業に対して技術支援を行う、都産技研「バンコク支所」を開設します。技術相談、技術セミナーが中心となりますが、現地での「技術の駆け込み寺」として活用いただきたいと思っております。よろしく願います。

さて、今年こそ景気を本格回復軌道に乗せなければならない年ですが、そのためには中小企業が業績を伸ばさなければなりません。都産技研は臨海副都心の本部、多摩テクノプラザ、城東支所、墨田支所、城南支所の5拠点体制(4月からはバンコク含む6拠点体制)で、今まで以上に中小企業の技術支援を強化してまいります。都産技研のさらなる活用をお願いしますとともに、この平成27年が皆さまの飛躍の年になることを祈念し、新年の挨拶といたします。